

2nd CESS Design Thinking Workshop

From Concept to reality: Developing a must-have OLEDs gadget surpassing the iPhone



アイフォンを超えるガジェットを創る!

「有機EL」とは、「有機エレクトロルミネッセンス」の略です。

有機物に電圧をかけ、有機物が光る現象のことを有機ELと呼びます。

役割の異なる有機物の層を積み重ねた有機層の厚さは数百ナノメートル(髪の毛の1000分の1以下!)

その薄い有機層をプラスとマイナスの電極ではさみ、電気を流して光らせる仕組みです。

有機ELの中核である発光体はフィルム状(薄膜)なので、プラスチック基板や導電性プラスチックなどと組み合わせれば、薄く、曲げられる(フレキシブル)ディスプレイになります。

また、発光していない時には透明なので用いる電極や回路によっては透明なディスプレイにもなります。

未来の私たちの生活を大きく変えるかもしれない技術の一つです。

開催日

2016年 2月13日(土) 11:00~17:00

会場

共進化社会システムイノベーション施設2Fホール

申込方法

氏名、ご所属、連絡先を明記の上、下記メールアドレスへお申込み下さい。

参加資格

九州大学の学部生、大学院生

参加費

無料(先着30名)

問合せ先

九州大学 共進化社会システム創成拠点

Email: coi_workshop@sti.kyushu-u.ac.jp URL: http://coi.kyushu-u.ac.jp/



有機EL技術紹介

安達 千波矢

(最先端有機光エレクトロニクス研究センター センター長)

全体ファシリテーター

永田 晃也

(科学技術イノベーション政策教育研究センター センター長)



主催: 共進化社会システム創成拠点 (CESS)、情報デバイスユニット、
科学技術イノベーション政策ユニット

共催: ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター

2nd CESS Design Thinking Workshop

開催概要



デザイン・シンキングとは

イノベーションを生み出すために、卓越したデザイナーの思考法を活用することです。つまり、デザイナーの感性と手法を用いて人々のニーズと技術の力を取り持つ方法論を指します。「理解」「発想」「試作」を素早く行い、何度も繰り返しながらチームで協創するイノベティブな活動が展開されます。開発者の視点からではなく、人間を中心に発想することで「あったらいいな」という人々の共感を大切に、生活者の視点からの問題解決を図ります。現場の状況を直接につかむことで新しい発想に結び付きやすく、今まで見えなかったものが見えるようになってきます。

対象とする参加者

今回のワークショップでは、有機EL技術の研究を専門とする開発者が思いもかけないような開発用途(社会実装)を導き出すことを最大の目標とします。デザイン・シンキングの手法を用いて多種多様なアイデアを引き出すためには、「メンバーが多様である」ということが前提条件になります。分野を問わず、アントレプレナーを志したり、発想力が豊かな学部生や大学院生の皆さんの参加を期待しています。

参加者が当日に取り組むこと、予備知識の必要性

参加者には、ワークショップに参加してアイデアを自由に出していただきます。自らのアイデアが選ばれた場合は、チーム編成後にメンバーにアイデアについて説明していただきます。予備知識は当日、技術について聞いてもらえればよいので必要ありませんが、「このようなことに不便を感じている、このような製品が欲しい」といった生活で感じていることを考えていただければありがたいです。

参加することの特典

- デザイン・シンキングの手法が身に付きます。
- アイデアが選ばれ社会実装することになれば、安達研究室が社会実装するまでプロジェクトに参画できる可能性があります。(特許化された場合の権利は安達研究室に帰属します。)
- 九州大学共進化社会システム創成拠点とネットワークを構築できます。